

# 令和3年度男性の家事・育児参画状況実態調査 (速報版)

## 調査概要

- (1) 調査目的 未就学児の子を持つ当事者夫婦等の家事・育児分担に関する実態や男性の家事・育児参画状況について都民の意識等を調査し、今後の施策の参考とする。
- (2) 調査地域 東京都
- (3) 調査対象 東京都在住の18歳以上70歳未満の男女
- (4) 標本数 5,000標本  
標本のうち、未就学児を持ち、かつ配偶者と同居している男性及び女性2,000名(男性1,000名、女性1,000名)
- (5) 標本抽出 重複を除いたモニター母集団の登録情報データベースを基に、18～69歳の東京都在住者のモニターを抽出した
- (6) 調査方法 WEBシステムを利用したインターネット調査
- (7) 調査時期 令和3年6月10日～令和3年6月18日
- (8) 調査実施機関 株式会社日旅ビジネスクリエイト
- (9) 回収結果 標本設計に基づき、以下の5,000件のサンプルを回収した。

### 【配偶者あり、未就学児ありの男女】

|    | 18歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 計     |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 男性 | —       | 22      | 481     | 444     | 50      | 3       | 1,000 |
| 女性 | —       | 107     | 663     | 229     | 1       | —       | 1,000 |
| 計  | 0       | 129     | 1,144   | 673     | 51      | 3       | 2,000 |

### 【その他】

|    | 18歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 計     |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 男性 | 81      | 339     | 270     | 270     | 270     | 270     | 1,500 |
| 女性 | 235     | 265     | 250     | 250     | 250     | 250     | 1,500 |
| 計  | 316     | 604     | 520     | 520     | 520     | 520     | 3,000 |

### 【調査結果に対する有識者のコメント】

第六期東京都男女平等参画審議会 男女平等参画部会

是枝 俊悟委員（大和総研金融調査部主任研究員）

- ・男性の家事・育児関連時間（P2, 3）は、平日平均については増加したものの週全体平均ではほぼ変化が無い。ただし、前提として、今回はコロナ禍での調査となったため、前回調査（令和元年度）と状況が異なる。実態把握には今後も継続した調査が必要。
- ・コロナ禍における働き方の変化と平日の家事・育児への影響（P4～）は、コロナ禍前後の変化について回答者の主観を聞いていることに留意。家庭内のやるべき家事・育児が増加した（P6）は女性に比べ男性の割合が低く、男性は家事・育児を積極的に実践するまでに至っていない可能性がある。
- ・在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加（P7）したことで生活を重視するようになったという人が多く、在宅時間の増加が男性の意識にも影響を及ぼしている。
- ・テレワーク等の働き方の仕組みづくりを進めるとともに、男性の家事・育児参画に向けた意識改革が必要。

# 調査結果概要

## 1 子育て世代の家事・育児関連時間【配偶者あり、未就学児あり】

### 子育て世代の家事・育児関連時間の男女差は、令和元年度調査と比較して拡大

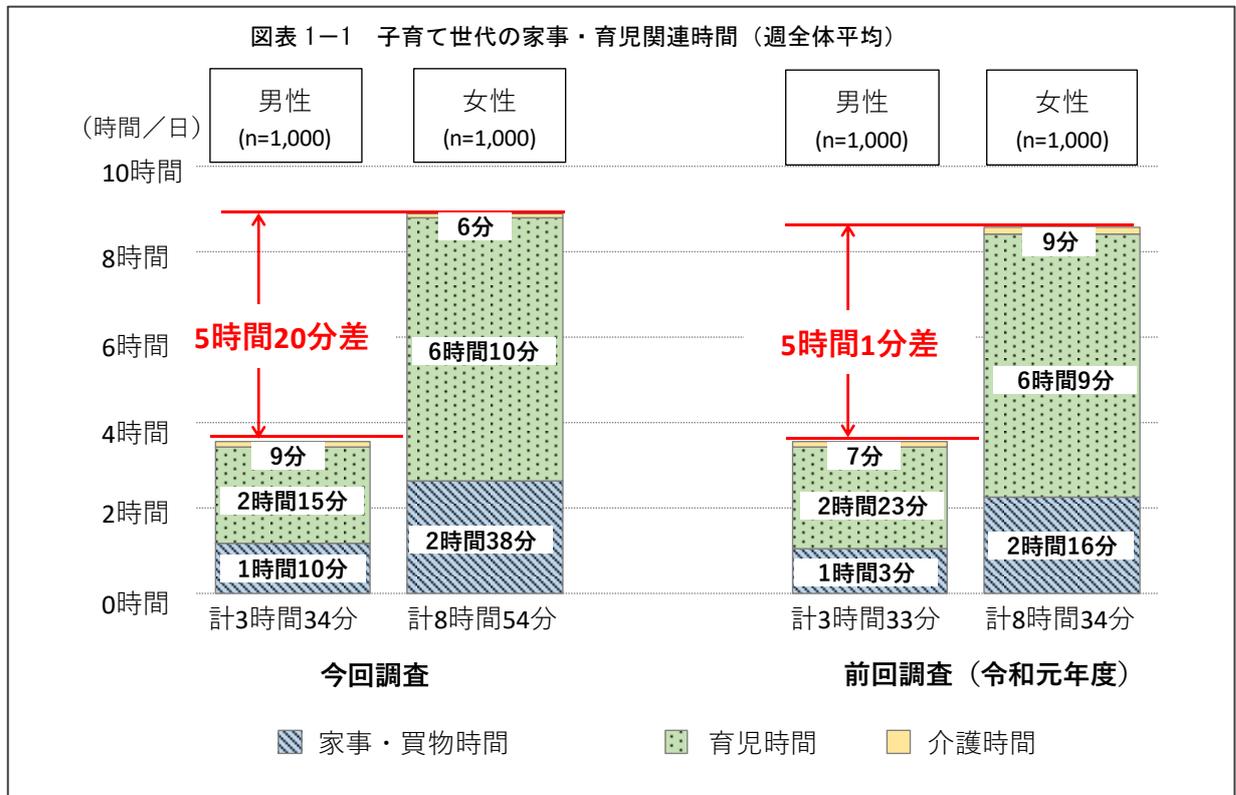
子育て世代（未就学児を持つ男女）の家事・育児関連時間を週全体平均（週全体における1日当たりの平均時間）で見ると、男性は3時間34分、女性は8時間54分で、男女差は5時間20分となった。都において実施した令和元年度調査「男性の家事・育児参画状況実態調査」と比較すると、男性の家事・育児関連時間は1分増加、女性は20分増加し、週全体平均の男女差では、19分拡大した（令和元年度調査男女差5時間1分）。（図表1-1）

平日平均（平日（月～金）における1日当たりの平均）で見ると、男性は2時間49分、女性は8時間30分となった。令和元年度調査と比較すると、男性は19分増加、女性は25分増加した。（図表1-2）

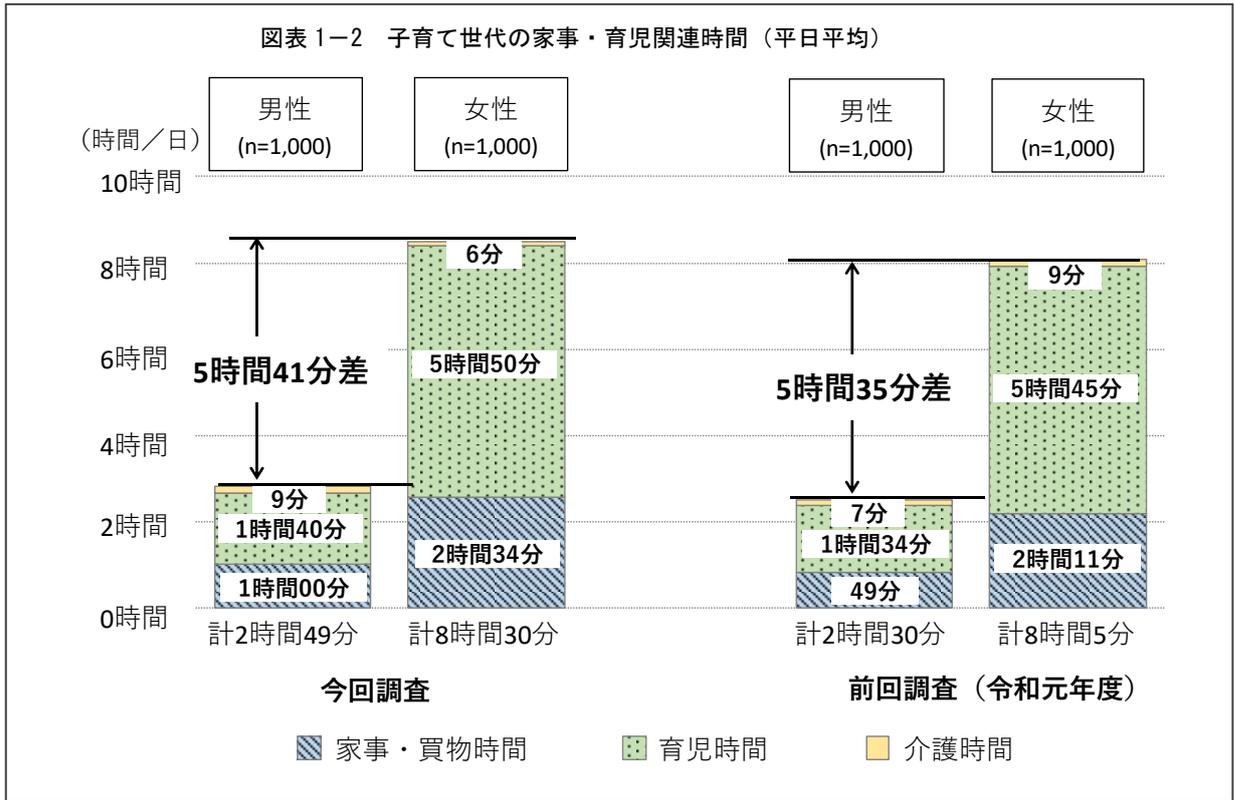
土日平均（土日における1日当たりの平均）を見ると、男性は5時間23分、女性は9時間52分となった。令和元年度調査と比較すると、男性は44分減少、女性は6分増加した。（図表1-3）

※週全体平均は次の計算式により算出している。（平日平均 × 5 + 土日平均 × 2） ÷ 7

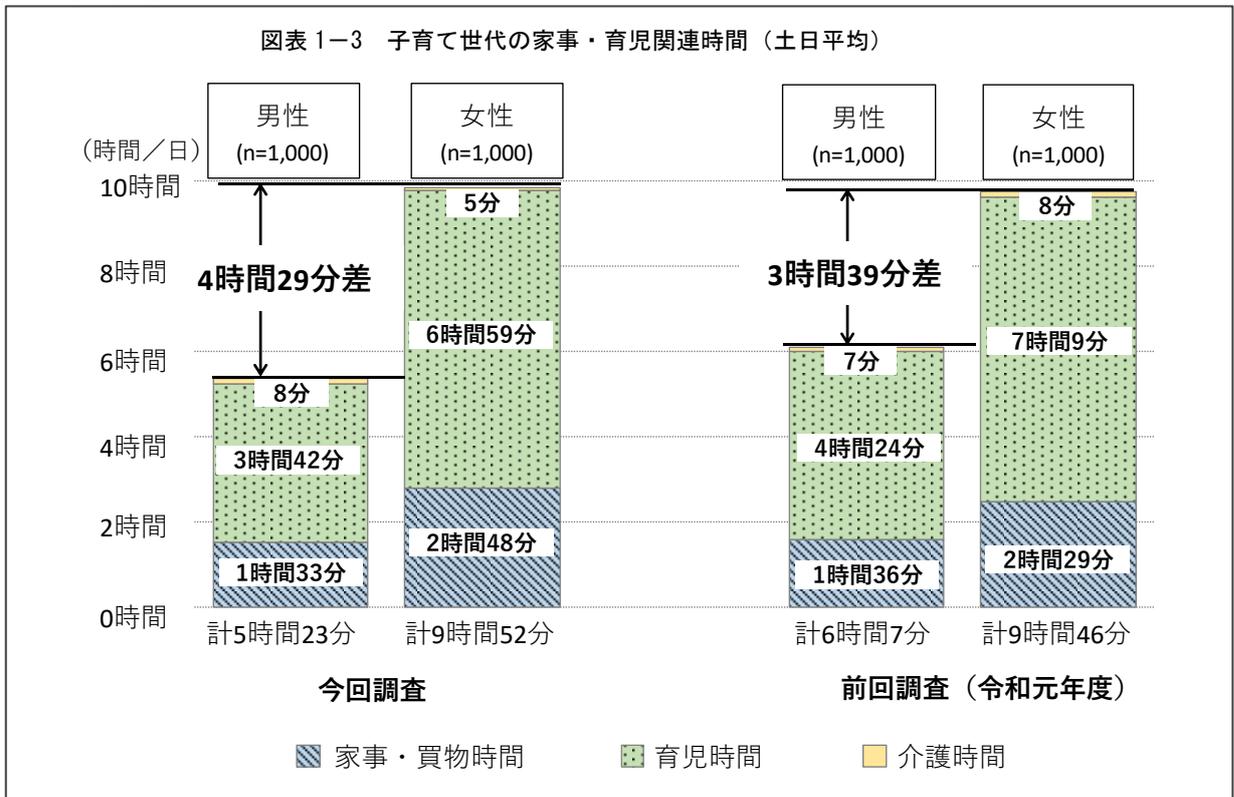
### （1）週全体平均



(2) 平日（月～金）平均



(3) 土日平均



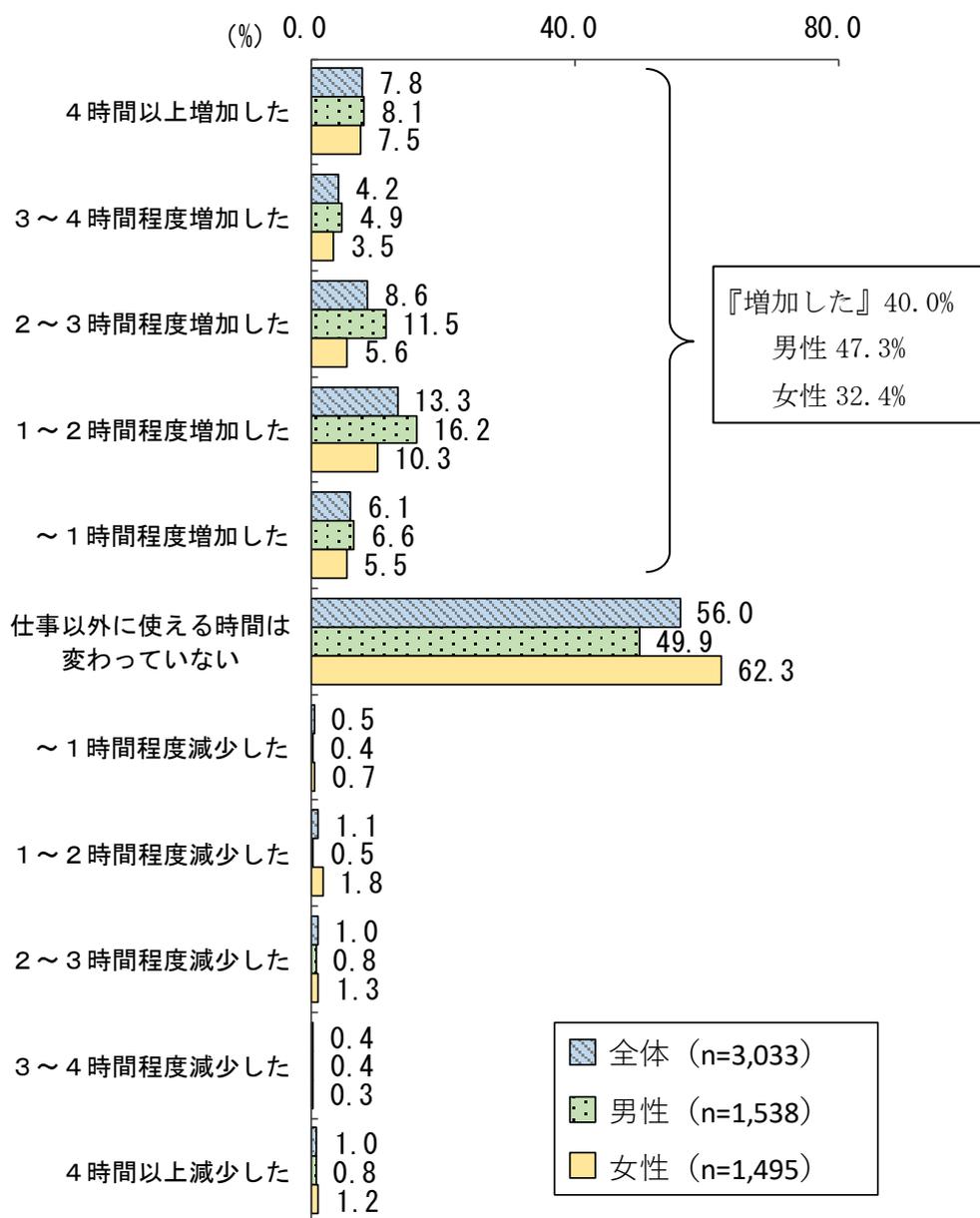
## 2 コロナ禍における働き方の変化と平日の家事・育児への影響

### (1) 平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間の変化【配偶者あり】

#### 平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が『増加した』人は4割

配偶者がいる方に新型コロナウイルス感染症拡大以前と調査実施直近1か月を比べた、平日の在宅時間のうち仕事以外（家事、育児、趣味、睡眠等）に使える時間の変化を聞いたところ、『増加した』と答えた人の合計は40.0%（図表2-1）

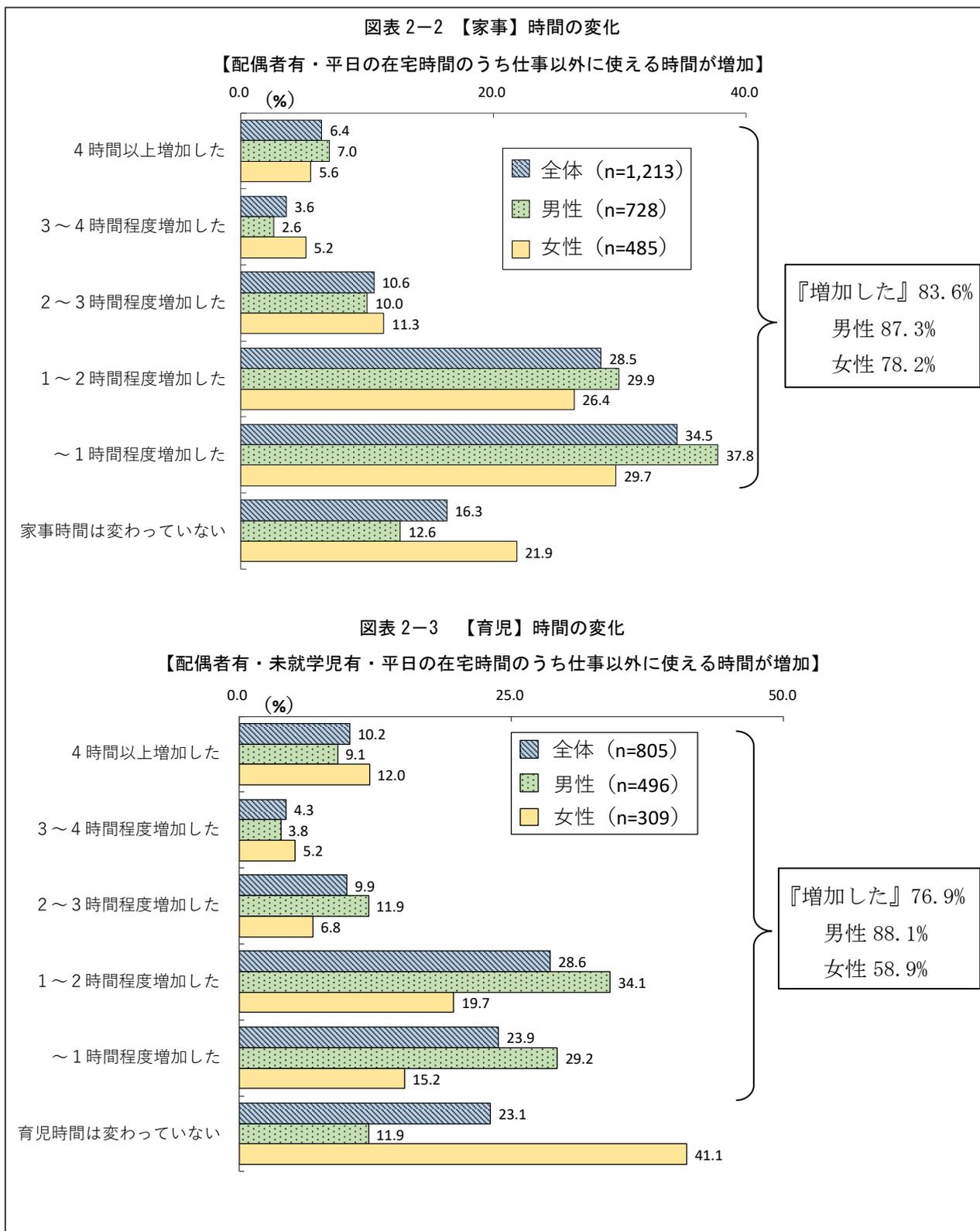
図表2-1 平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間の変化－【配偶者有】



(2) 平日の家事・育児時間の変化【配偶者あり・平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加】

「平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加した」人のうち「家事・育児時間が増加した」人は7割を超える

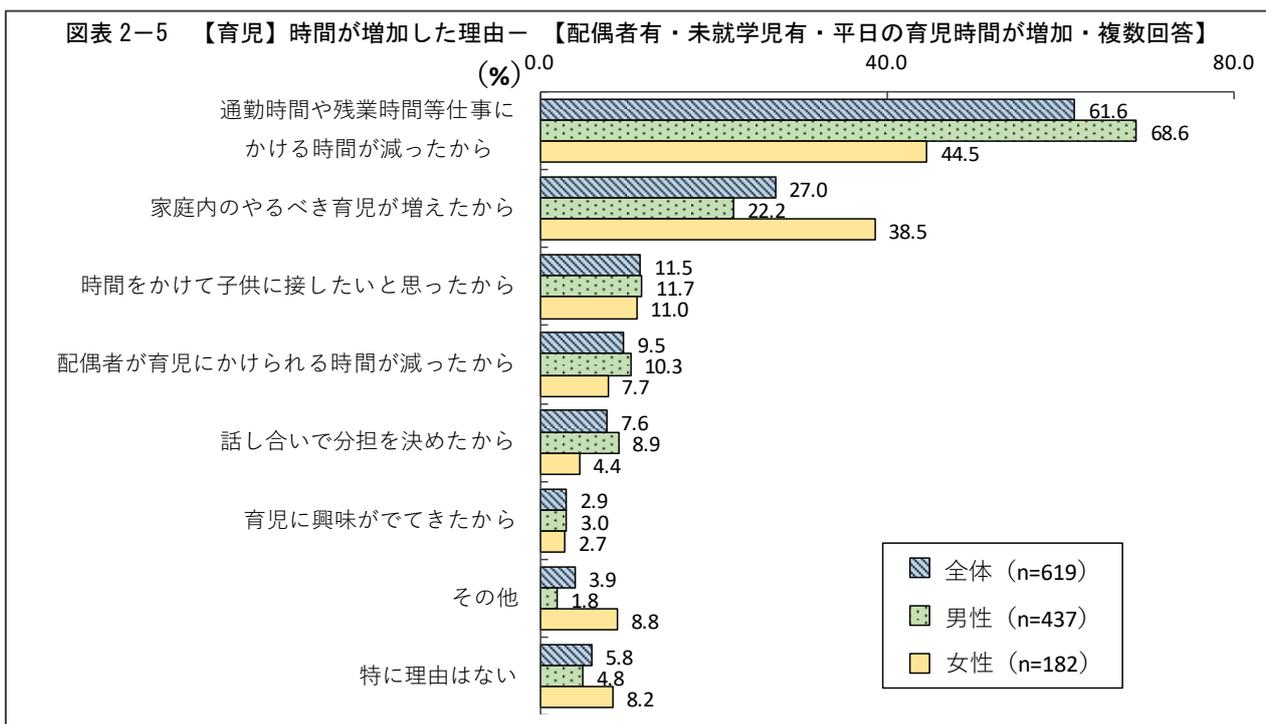
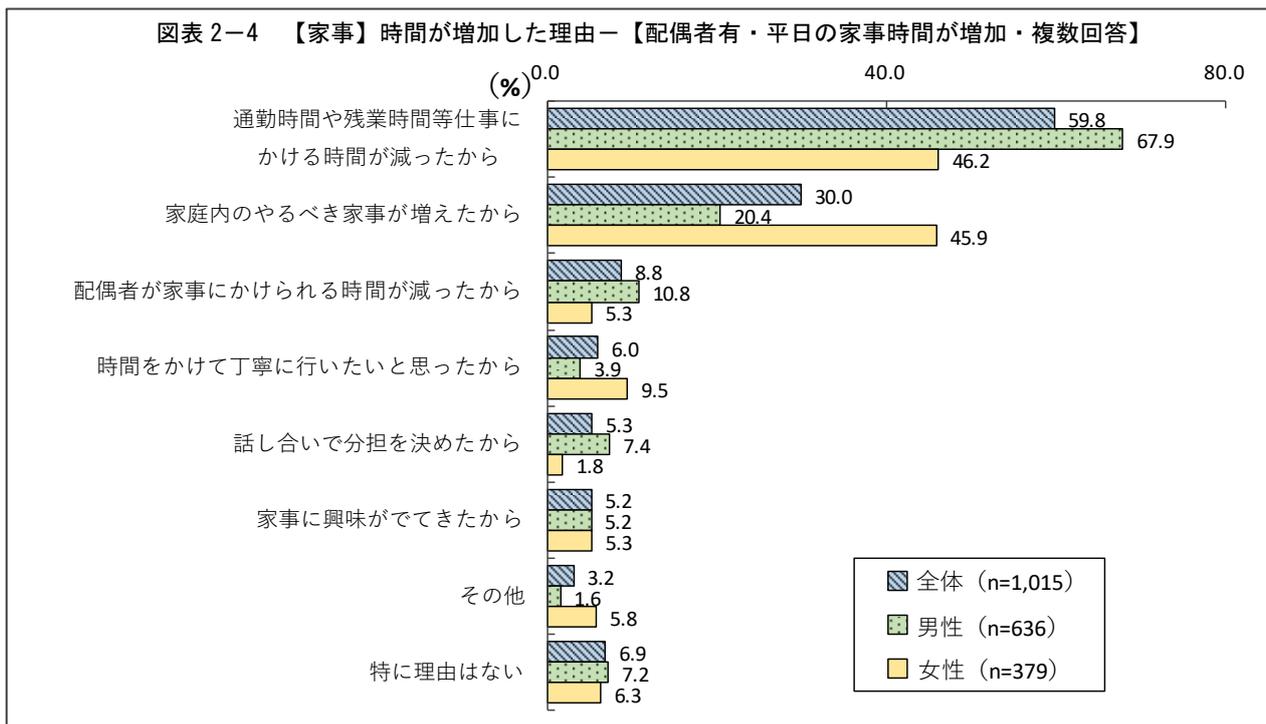
- ① 平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加したという方(2(1)関連)に、そのうち【家事】にかける時間の変化を聞いたところ、『増加した』と答えた人の合計は83.6% (図表2-2)
- ② 平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加したという方(2(1)関連)で未就学児がいる方に、そのうち【育児】にかける時間の変化を聞いたところ、『増加した』と答えた人の合計は76.9% (図表2-3)



(3) 家事・育児時間が増加した理由【配偶者あり・平日の家事・育児時間が増加・複数回答】

平日の家事・育児時間が増加した理由は「通勤時間や残業時間等仕事にかける時間が減ったから」が最多

- ① 平日の【家事】にかける時間が増加したという方(2(2)①関連)に、その理由を聞いたところ、「通勤時間や残業時間等仕事にかける時間が減ったから」59.8%が最も多かった。次いで「家庭内のやるべき家事が増えたから」30.0%が多かった。(図表2-4)
- ② 平日の【育児】にかける時間が増加したという方(2(2)②関連)に、その理由を聞いたところ、「通勤時間や残業時間等仕事にかける時間が減ったから」61.6%が最も多かった。次いで「家庭内のやるべき育児が増えたから」27.0%が多かった。(図表2-5)

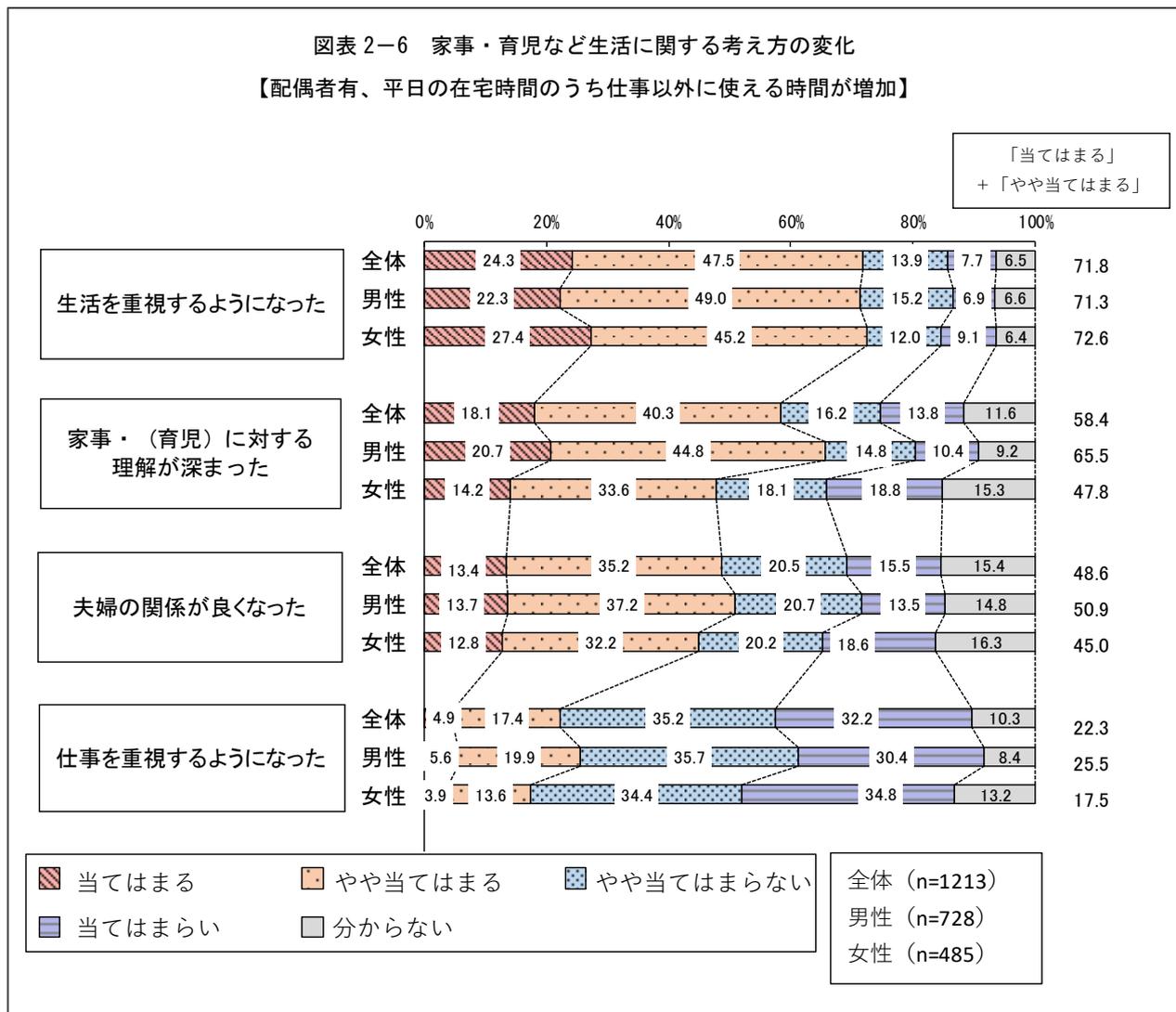


#### (4) 仕事以外に使える時間が増加したことによる生活に関する考え方の変化

【配偶者あり、平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加】

#### 「平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加した」人のうち「生活を重視するようになった」人は7割を超える

平日の在宅時間のうち仕事以外に使える時間が増加したという方(2(1)関連)に、新型コロナウイルス感染症拡大以降の家事・育児など生活に関する考え方がどう変化したかを聞いたところ、「当てはまる」「やや当てはまる」の回答を合すると、「生活を重視するようになった」71.8%が最も多かった。次いで「家事・(育児)に対する理解が深まった」58.4%が多かった。(図表2-6)



<表記方法について>

- (1) 集計は、小数点第二位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しているため、複数回答の設間については、全ての比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- (3) n は、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数である。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。